

囲いやま森の会 活動記録（第360回）

壱岐貞俊

2017.10.07（土）10:00～12:00 曇

参加者：壱岐・森山 計2名

何とも頼りない空模様で、皆さんの参集は期待薄。10時まで待ってみることにする。
森山さんが来てくれたので、南西の景勝地エリアで思い思いの作業に没頭。

（1）打合せ等

- なし

（2）作業

- アオキ・シユロの切株除去
- 刈払雑草の片付け
- コンニャク掘り出し

（3）自然観察他

- キクイモの花期完

（4）懸案事項

- ステージ基礎、観客腰かけの手直し
- 倉庫屋根の一部補修
- 中央広場の倒木処理
- 北東部の放置コンクリート基礎付きポール移動
- 秋の観察会は次回：10月17日（火）に延期



西縁の様子



収穫したコンニャク



畠地の様子（カボチャの後に大根播種）

囲いやま森の会 活動記録（第360回）

壱岐貞俊

2017.10.07（土）10:00～12:00 曇

参加者：壱岐・森山 計2名

何とも頼りない空模様で、皆さんの参集は期待薄。10時まで待ってみることにする。
森山さんが来てくれたので、南西の景勝地エリアで思い思いの作業に没頭。

（1）打合せ等

- なし

（2）作業

- アオキ・シユロの切株除去
- 刈払雑草の片付け
- コンニャク掘り出し

（3）自然観察他

- キクイモの花期完

（4）懸案事項

- ステージ基礎、観客腰かけの手直し
- 倉庫屋根の一部補修
- 中央広場の倒木処理
- 北東部の放置コンクリート基礎付きポール移動
- 秋の観察会は次回：10月17日（火）に延期



西縁の様子



収穫したコンニャク



畠地の様子（カボチャの後に大根播種）

171011 囲いやま情報

- ・10日、イモ畠の次期作付けに備え、芋掘りに着手。ツルの除去に時間と体力を消耗し11日に全部掘り上げた。堀上げ後、苦土石灰を施し、笹の根や雑草の除去と畝作りまで完了。
- ・キクイモ畠は全面刈り払い完了、刈りクズも大半ビオネストに運び入れた。キクイモ類がなくなるとゴミが目立つ。
- ・西側道路寄りの刈払と刈りクズ始末もほぼ終えた。こちらもゴミ収集要。
- ・倉庫の屋根補修完。
- ・クサギ林の下草一部刈払い。
- ・次回作業日の17日、11時30分「子どもっと松戸」と打合せ予定。
また、皆さんの都合がつけば、午後「秋の観察会」。
- ・更に17日、堀上げた芋の分配をしますので容れ物を用意の事。



団いやま森の会 活動記録（第361回）

壱岐貞俊

活動日：2017.11.04（土）10:00～12:30 晴

参加者：壱岐・池田・西岡（新会員）・西澤・野口・野口y・三嶋・森山・山口

計9名

新会員の西岡さんには、9時半に森に来て頂き、一輪車を押して森の東南及び南西の両隅に確保してある粗大ゴミを取りに行きがてら、森の全体の様子を説明した。その後の会員との顔合わせは、はなからお互い打ち解けた雰囲気であった。

作業後、野口夫妻が森の南西エリアの畠で栽培・収穫した落花生の塩ゆでを賞味した。また、収穫していたサツマ芋をやつとのことで皆さんに持ち帰って貰った。

（1）打合せ等

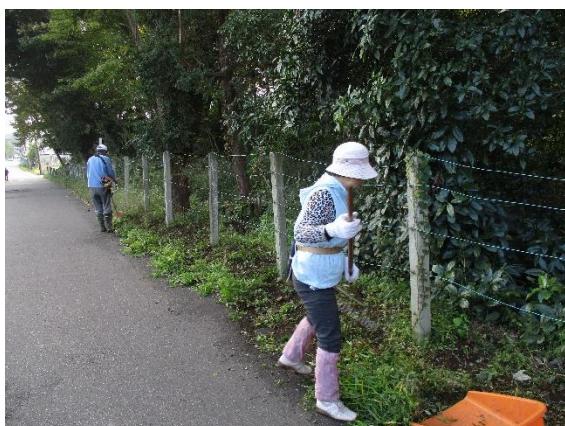
- ・当会規定の新会員受入れ手続きの紹介をし、西岡さんの受け入れを了承。
- ・第15回入門講座、モリヒロフェスタ、及び石宮の森の活動報告の件等紹介。
- ・12月棚卸、小型運搬袋3ヶ購入予定、倉庫屋根雨漏り対応の件等報告した。

（2）作業

- ・北縁刈り払い
- ・大量に蓄積したゴミの弁別。（暮れの作業前倒し実施）
- ・南西エリアのゴミ収集

（3）自然観察他

- ・南西景勝地のマユミの実の赤化とコゲラつがい？の来訪
- ・シロフクロタケ
- ・ツルウメモドキの果皮の黄化（西側道路からは識別困難なのが惜しい）



西岡さん早速北縁刈払作業



南西景勝地のマユミとゴミ収集



←ゴミ弁別分別作業

シロフクロタケ→



北側道路わきの除草



囲いやま森の会 活動記録（第362回）

壱岐貞俊

日 時：2017.11.21（火）10～12時 天気：晴

参加者：赤石・壱岐・佐久間・西岡・西澤・野口・馬場・三嶋・山口

岡部・山下（4期）・松田・田村・佐竹・高木・長瀬・真嶋（樹木医）・石川さん

計18名

（1）打合せ・連絡

- ・西岡さんの入会申込書受領。
- ・次年度オープンフォレストO-F-7は4月21日（土）～4月29日（日）の開催で決定。囲いやまの森の開放日は4月21・22日（土・日）の両日で申請した。
- ・ゴミ出し作業は次回12月2日の作業日。
分別要領で実施し、市への提出資料のフォーマットに記入ください。（佐久間さん預かり）
- ・「里いも収穫」を次週の11月28日（火）に予定、出席者で分配し保管措置無し。
- ・HAPPY ウオーク（金ヶ作のウォーキンググループ）が約10名で囲いやま森の中を周回された。森の園路を爽快に歩いた感じで、火曜日が定例活動のようで、また来るかも？

（2）樹木診断

森の北側と西側が道路に面しており、危険樹木伐採および枝打ち作業などを対応してきたが、森のボランティア活動では安全作業に限界があるため、石川さんの立会いのもとに、樹木医の真嶋さんに樹木診断をお願いした。今回は囲いやまメンバーの他、里やま応援団の皆さんに参加いただき、各森での参考になるよう研修講習会とした。電線にかかり、倒木の危険があるため、特に北縁につき危険樹木で伐採した方がよいとの判断基準を解説いただき、対象樹木に赤テープを巻き、枝打ちは黄色のテープ巻き。道路に大幅にはみ出た枝は、早めに伐採がよいとの意見でした。

- 1) 根元が腐っている（ウロがある）と弱くなるので伐採、判定は長いドライバーのような金属棒で刺さるようであればNG、ベッコウダケやナラタケが出ていればNG、樹木の根を観られるように周りは除草が必要。
- 2) キヅタやフジは切斷除去、3) 4～5月に葉を観る、6月に判断：調子が悪い葉は枝切り、天辺の葉が悪ければその樹木はNG、
- 4) スギは溝腐れ病にかかっているものが殆どであり、判断をして切るとよい。
- 5) 枝の切り方が悪い場合は、そこから菌が入り腐ってくるので、枝切りに注意をする。
- 6) 日本緑化センターの「木を診る 木を知る」@360円×1.08の小冊子は参考になる。
(これは各団体で読んでおく方がよいので、里やま応援団でまとめて購入を検討)

7) 西側道路沿いの整備は一部実施するとよいものがある。

*入り口付近のハリエンジュ

2本は、来年の伐倒講習の課題とする提案があり。

*北側道路沿いの伐採は、警察署に申請をして、道路封鎖などにより造園業者が実施となるので、石川さんの判断となる。

樹木調査の様子





171128 囲いやま情報

赤石、壱岐、西澤、森山、

壱岐

(1) 里イモ収穫



収穫の様子と大根等の生育状況



仕分け



「ごみ看板」を入り口から移設

(2) ゴミ出し

- 明日 2 日の作業日は、分別ごみの回収場所への移動をお願いします。
- 未分別のが 2 袋あると思いますが、この分別・移動もお願いします。
- 同一区分のゴミ群が容易に識別できるような配慮をお願いします。
- 提出するデータ(写真込)を壱岐宛送付ください。
- 佐久間さんに要領書きを渡していますが、皆さん宜しく。

囲いやまの森一木の健康診断(2019年11月21日)

高木化した樹木と立地の危険性

囲いやまの森は北西側は道路から畠、西側は道路から住宅地に面して、これらの道路はそれなりに車の通行と人の行き来がある。林縁には高木の落葉樹が生えており、落葉樹のうちエゴノキ、ハリエンジュ、ミズキほかなどの幹が腐ったり、傾いたりしているため、倒木があると通行中の車、また住宅への枝葉の飛来による損傷が生じる恐れがある。基本的に倒木などによる事故等の責任はそれを所有、また管理する個人、団体が負うことになる。そのため周囲へ影響を及ぼすことが予想される樹木の管理をどのように行う

かは松戸里山応援団が活動する森での重要な検討事項ともいえる(裁判ではどのような管理をおこなっていたかで免責の程度が異なる)。このことはかつての八ヶ崎の森や秋山の森すでに経験している。そこで囲いやまの森では北西側、および西側に生える林縁の高木について樹木の専門家による健康診断を行ってもらい、その結果をもとにして①伐採すべきもの、②業者に頼むもの、③囲いやまの会がやることなどを確認することになったようだ。参加者は囲山の森の会員、里山応援団の会員、地権者など約20人で11月20日に実施された。



講師による危険木の説明

危険木の判断は木の傾きと基部の腐れ

囲いやまの会から木の健康診断の趣旨が説明されたあと樹木医から簡単な挨拶があった。それによる現場の北側は交通が多く、西側は住宅があり何れも木が倒れたら危ない。危険木かどうかを判断する場合、幹基部の腐れと樹木が傾いているかどうかが基準になるが、今回の現場は幹の基部が隠れているので判断が難しい。太い木の周りだけは腐りが分かるよう根元を見えるようにしておくのがいい。また基部の腐れはこのような物(鋼棒)を幹の基部に差し込んだとき中に入っていたら腐りがある。これは何回もやっていると土の中に入っていたのか腐りの中に入ったのかが感触でわかるようになる。詳しいことは現場で。(聞き逃しなどメモが正確に取れてないので筆者の解釈が入っていることに留意)

北西側林縁を見る



道路に面した北西側の高木。幹が道路側に傾いた樹木が見られ、一部の枝が電線に架かっている。



この木は基部が腐って幹の一部が無くなっている。このような高木は切らないと危険。高木でも幹の途中にうろ(空洞)がある場合は必ずしも切る必要はない。



(左)エゴノキの枝の切り口が閉じていて、理想的な伐り方をしている。これが難しい。(中)基部に鋼棒(数千円以上)を刺したが入っていない。このエゴは大丈夫。(右)エゴの切り口に比べてこの木(ケヤキ)の切り口は悪い例。菌が入って腐る。(切り戻せば切り口がふさがる⑤~⑦。数字は「木を診る 木を知る」関連ページ)。切るときは斜めに切ってその頂点に枝を残すとよい。



これはサワラでしょうか、弱っています。



このハリエンジュも危険なので伐採。



このミズキは傾きがこっちになっている(写真が違っている可能性がある)。傾いた広葉樹は傾きと反対側の根や幹を太らし、引っ張つて支えようとするが、針葉樹は傾き側を太らせて押し上げようとする。^⑫このミズキは2/3に切った方がいい。上1/3を切る。



こここのミズキは上が重たく、来年、再来年の話ではないが、将来倒れるおそれがでてくるので切った方がいい。

(写真なし)これは2本切ったほうがいい、枝が北西側に出すぎている。切れるのであれば2/3程度にしてもいい。この場所は4~5年に一度剪定を心掛ける。



これらはキヅタが絡まっており、幹が枯れているようなので近い将来に倒木が予想される。優先的に伐採が必要。何れもハリエンジュのようだ。



(写真なし)木の途中で膨らむのは内部に異常があるから(37~38)、ベッコウタケが木を枯らす、弱った木にベッコウタケがつく、ナラタケモドキも弱った木につく^{⑯~⑰}。

胴吹きやひこばえの木が見られることがあるが注意する必要がある^⑯。



ベッコウタケの幼菌と思われる。
(秋山の森)



ナラタケモドキ(みなみの森)



西側林縁を見る



住宅地側に傾いて伸びるケヤキ、ミズキ、ムクノキなどの落葉高木。



このイヌシデではわからないが勢いがない木は葉が少ない、小さい^⑯ことで判断できる。ただしこれは葉を伸ばした後の6月が分かりやすい。またある枝だけが出方の悪いことがある。その枝は切っておいたほうがいい。



この枝も切り方が悪く菌が入りやすい^⑰。団いやまの会としても住宅への枝の張り出しを防ぐため手入れしていくところ2年、高枝は切って減っている。これ以上高い場所の枝は作業が危険で無理、出来ない。それもあってこのような切り方になったようだ。

まとめ

- 北西側林縁では10本程度の高木が伐採対象になった。なるべく早く切るものと、毎年徐々に切るものとに分けられる。また切る方法として根元からの場合と上1/3でもいい場合がある。
- 北西側林縁では4~5年に一度の剪定を心掛ける。
- ハリエンジュ2本とキヅタが巻き付いて枯れている2本は最優先で切る必要がある。
- ハリエンジュ伐採では重心が森の方にかかっているものはロープで倒す方向を誘導すれば囲いやまの会でも伐採可能。
- 業者がやるとすれば金がかかる。どこをどう切るか、地主さんの意向もあるので今後に検討して判断する。



最後のまとめ

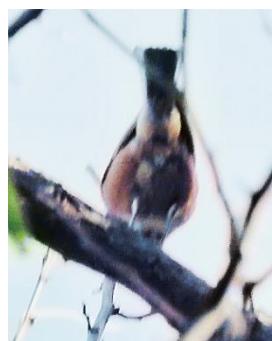
付、横浜市もりづくりガイドライン(外周管理範囲において伐採すべき樹木の選定方法)

(重度の衰退木)

- ①損傷や腐朽が幹周の1/2以上に広がっている、②損傷や腐朽が幹径の1/2以上の深さである、③根元にキノコの発生が目立つ、④葉の多くが枯死または付いていない、⑤幹を押すと根元から搖らぐ、⑥樹冠の半分以上が敷地外に張り出している、⑦樹木の根元が地盤から浮き上がっている、以上のうちひとつでも該当すれば危険木。
- ①梢や上枝の先端の枯損が目立つ、②太枝や幹の枯損が目立つ、③幹周の1/3以上に損傷や腐朽が広がっている、④幹径の1/3以上の深さの損傷や腐朽がある。該当項目の数に応じて総合的に判断。

森の散策

ひととおり木の診断を終えた後、林内を散策。南側草地の果実が秋の日を浴びてよく目立つ。日当りのいい場所に生えているためか実つきがいいようだ。



移動中のヤマガラ



今まで見た中で最も多くの果実をつけていたツルウメモドキ



センダンの若い果実



クサギの果実。赤紫色の萼と黒い果実の対比が目立ち鳥の目を引き付ける。

午後の秋の
日に密生す
る白い長毛
が映えるオ
ギの小群落
が美しい。



倉庫前の広
場に生育し
ていたハナ
ワラビの仲
間。一見して
オオハナワ
ラビに似る
が。



たわわに実っているマユミの果実



団いやま森の会 活動記録（第363回）

壱岐貞俊

2017.12.02（土）10:00～12:45 晴

参加者：赤石、西岡、西沢、野口、野口Y、馬場、松戸、山口

計8名

朝は少し寒かったが、昼間は風もなく小春日和。空は青く、例年になくきれいに色づいた木々の間をたくさん的小鳥が飛び交っていて、快適な森のたたずまいだった。

作業は大量の不法投棄ごみの整理で、快適とは言い難いが、おかげで、西側通路脇が快適な空間となってきた。ここまでごみを収集して運搬した会員の努力に感謝。

作業後は、ゆっくり初冬の森の散策を楽しんだ。



（1）打合せ等

- ・次回12月19日（火）は倉庫の片付け。1月6日は休み。
1月16日（火）は森の観察後、新年会（わさびで昼食会予定）

（2）作業

- ・収集してあった不法投棄ごみの分別整理。

（3）自然観察他

- ・イロハモミジの紅葉、ウワミズザクラの黄葉、コナラの茶色が陽の光を受けて美しい。
オギの穂も逆光に白く輝いていた。
- ・ヤマガラ、シジュウカラ、コゲラ、ルリビタキ、アオジ
- ・マユミ（実）、ツルウメモドキ（実）など
- ・キセルガイ
- ・エノキの切り株・クワの傷口にヒラタケ。
- ・榾木に食べごろのシイタケ。



（4）懸案事項

- ・倉庫広場横のミズキ？が危ない。
- ・倉庫広場東側の林内で、大きな木が地上1mで折れて、ハリエンジュに架かっている。



ヒラタケ



囲いやま森の会 活動記録 (第 364 回)

壱岐貞俊

日 時：2017. 12. 19 (火) 9:30～12:45 晴

参加者：赤石 壱岐 佐久間 西岡 西澤 野口 野口Y 三嶋 山口

計 9 名

来訪者：長原(千葉大)、石崎(里やま講座 15 期生)、岡部(里やま)

3 名

今日も小春日和に恵まれ、梢越しの青空や飛び交う小鳥に目を奪われ、コゲラ？のドランギングが聞こえる。今年の活動最終日は倉庫整理を提案させていたが、前回指適された「かかり木」が気になり、その対策検討と併せ、周辺の状況視察をした。

長原さんのインタビューと石崎さん対応等もあり、結構せわしない一日になった。

石崎さんは、三嶋の案内で石川宅の屋敷林を視察、育苗圃に寄り小高所長に挨拶、ハーブGの作業と圃場を見学。1月 16 日(火) に 15 期の皆さんが囲いやまの森に来て、11 時前後には石川さんの森を観に行く予定との連絡。

(1) 打合せ等

・次回 1 月 16 日は新年会。里やま講座 15 期生(7 名)が見学来訪の予定。

新年会は常盤平駅近くの「わさび」で 2,000 円会費、壱岐に申込みください。

・2 月に入口付近の危険木：ハリエンジュ伐倒などの処理に合わせ「応援団の伐倒の研修会」を計画(提案)。

(2) 作業

・「かかり木」の状況観察と対策検討及び周辺の危険木調査。

・植生観察エリアの落葉搔きをして、落ち葉のプールに運び、周辺を整備。

(3) 自然観察等

・ヒラタケ

・コゲラ？のドランギング

・ノイバラの赤い実など



かかり木の様子、キヅタなどの葉が邪魔で
かかり方が不分明、かかり位置は 15m 弱か



長原さんのインタビューの様子



落葉搔き後の様子